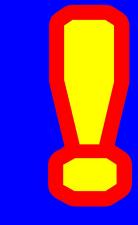


2012年夏の主役は経大準硬式野球部!

経ス



全
日
本
四
強



本学準硬式野球部が、第64回全日本準硬式野球選手権大会で見事ベスト4進出を果たした。1回戦東北学院戦では、4回に山本（人科1年）の三塁打で、先制、スクイズで追加点を奪い、このリードを田中（経営1年）、生田（経営3年）の継投で守りきり3対1で勝利。危なげなく初戦を突破した。

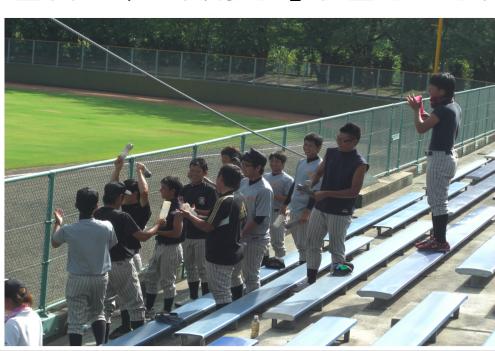
続く2回戦の相手は好投手を擁する名門愛知学院大学。接戦が予想されたがエース生田が得意のスライダーを駆使した気迫のピッチングで相手チームに得点を許さない。味方が4回に挙げた虎の子の1点をこのまま生田が守りきり1対0の完封勝利で準々決勝は関西の強豪校として名を馳せる同志社大学。関西有数の強豪校と言われる本学をもつしてもここ数年、練習試合を含め一度も勝ったことのない相手であった。しかし、波に乗る本学準硬式野球部は、4回に沖（経情4年）のタイムリーフライで3点目を奪い取った。

准々決勝は関西の強豪校として名を馳せる同志社大学。関西有数の強豪校と言われる本学をもつしてもここ数年、練習試合を含め一度も勝ったことのない相手であった。しかし、波に乗る本学準硬式野球部は、4回に沖（経情4年）のタイムリーフライで3点目を奪い取った。

1対2で惜敗となつた。本学準硬式野球部悲願である2度目の全国制覇は叶わなかつたが全国

このまま逃げ切れるかと思ったが、ここまで好投してきた投手に疲れが見え始め、9回表に追いつかれてしまう。それでも延長10回相手の攻撃を氣力で凌ぎきり、ついに上田の好走塁で勝ち越し。この1点を本学の持味である部員一体となつた鐵壁の守りで凌ぎきり準決勝へと駒を進めた。

そして迎えた準決勝、相手は今大会の優勝候補筆頭と言われる帝京大学。炎天下の連戦で選手達の疲れはピークであったが「大会前から中央大学と戦うこと」を目標としていた部員達は、大学関係者、OB、そして控え選手達の大支援をバックに、気力を振り絞りチャンピオン中央大学に挑んだ。2回に上田の犠牲フライで1点を先制するも、6回に逆転を許し1対2とされる。その後、逆転を信じスタンド一体となつて選手達は懸命の反撃を試みるが、中央大の堅いの守りに一歩及ばず、とされるとともに、6回に逆転を許し1対2で惜敗となつた。本学準硬式野球部悲願である2度目の全国制覇は叶わなかつたが全国



発刊:大阪経済大学
スポーツ文化振興室

経
大

がり、その後、大会二連覇を成し遂げた中央大学をここまで苦しめてのベスト4は大躍進と言えるであろう。「マウンドでも応援はよく聞こえた。ピンチの時に心とした本学の応援は対戦相手からも「敵ながらあっぱれ」と賞賛され、その応援は日本一であつたと言つても過言ではないであろう。「マウンドでも応援はよく聞こえた。ピンチの時に度も勇気付けられた」とは工大生田の弁。この全員野球が準硬式野球部を全国ベスト4に導いた原動力となつことは疑いようがない。今大会で部を牽引してくれた4年生達は引退となるが、新チームも守りでは生田中の両投手、攻撃では長打力のある原（経営3年）を中心とした全員野球は他大学にとつては脅威となるであろう。キャプテン原に今後の抱負を聞いてみたところ「関西で勝ち上がることは大変ですが来年も必ず全国大会に出場します」と力強く語ってくれた。今後の準硬式野球部に大いに期待したい。